

研究発表

印象記

南川整形外科病院 理学療法士 前川 凌大

第30回九州・山口スポーツ医・科学研究会に参加して



平成29年12月9日木枯らしが吹きすさぶころ、第30回九州・山口スポーツ医・科学研究会が開催され、4名の理学療法士が発表しました。この研究会は、スポーツの診療や活動に従事する医師、理学療法士などの医療スタッフ、体育科学者など様々なスポーツ関連分野の皆様が一堂に会して開催されます。スポーツに関わるメディカルスタッフとしては大変興味深い研究会です。

私は、『投球障害パンフレット配布の試み～ドロップアウト・フェードアウトの減少に向けて～』というテーマで発表しました（ドロップアウトとは、投球を許可される前に来院しなくなった者。フェードアウトとは、投球を許可されたが全力投球を獲得する前に来院しなくなった者。と定義している）。今回、「投球障害肩・肘」に関するパンフレットを作成し、平成28年11月より配布を開始しました。パンフレットの内容は、①肩・肘を痛める原因（コンディショニング不良、投げすぎ、フォーム不良）②当院のリハビリの流れ③患者さんからの質問内容と回答④自主訓練指導内容を載せています。パンフレットを使用し説明を十分に行うことによって患者さんの投球障害に対する理解度が向上し、ドロップアウト・フェードアウト率が減少。よって、継続したリハビリを行うことが可能となり、当院の治療目標である「痛みのない全力投球の獲得」「怪我の再発予防」に繋がると考えています。患者さんのスポーツ復帰に向けてリハビリスタッフ全員で頑張っていきますので今後ともよろしくお願ひ致します。